

# Azure Cloud ServicesへのISEのインストール

## 内容

---

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[手順](#)

[Cisco ISEでサポートされるAzure VMサイズ](#)

[Microsoft AzureクラウドサービスにおけるCisco ISEの制限](#)

[設定](#)

[Azureクラウドに接続されたISEの導入例](#)

[コンフィギュレーション](#)

[次の作業](#)

[ポストインストールタスク](#)

[Azureクラウドでのパスワードの回復とリセット](#)

[1. シリアルコンソールによるCisco ISE GUIパスワードのリセット](#)

[2. SSHアクセス用の新しい公開キーペアの作成](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、Azure Virtual Machineを使用してCisco ISE IOSインスタンスをインストールする方法について説明します。Cisco ISE IOSはAzure Cloud Servicesで利用できます。

## 前提条件

### 要件

サブスクリプションとリソースグループに関する知識があることが推奨されます。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの内容は、次のソフトウェアおよびクラウドサービスに基づいています。

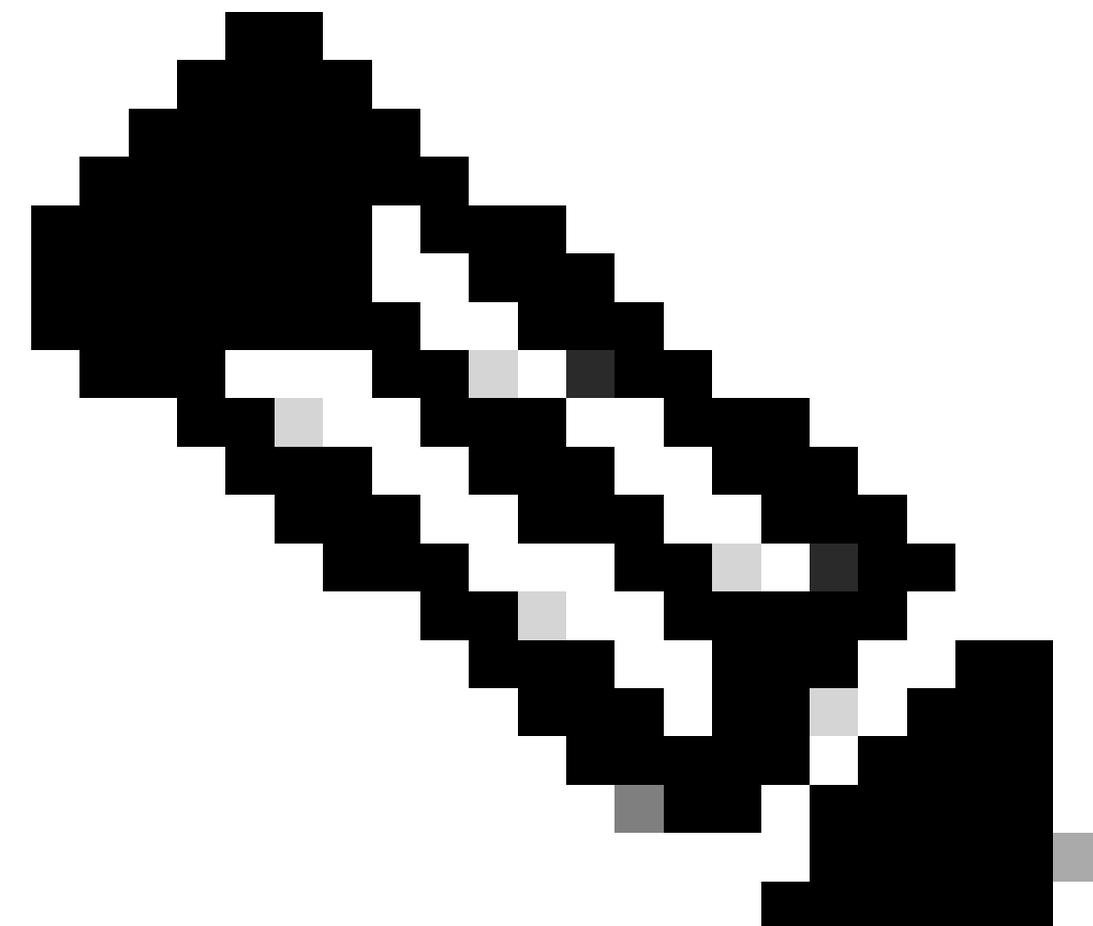
- Cisco ISE バージョン 3.2.
- Microsoft Azureクラウドサービス

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

## 手順

All Services > Subscriptionsの順に移動します。アクティブなサブスクリプションを持つAzureアカウントとMicrosoftとのエンタープライズ契約が存在することを確認します。スペースを予約するためのコマンドを実行するには、Microsoft PowerShell AzureモジュールCLIを使用します：(Power Shellおよび関連パッケージのインストールについては、「[Azure PowerShellのインストール方法](#)」を参照してください)。

```
Connect-AzAccount -TenantID <Tenant-ID>  
Register-AzResourceProvider -ProviderNamespace Microsoft.AVS |  
Register-AzResourceProvider -ProviderNamespace Microsoft.Batch
```



注：テナントIDを実際のテナントIDに置き換えます。

次のURLで前提条件を完了します。[Azure VMwareソリューションのホストクォータの要求](#)を参照してください。

サブスクリプションを右クリックして、All Services > Resource groupsの順に選択し、リソースグループを作成します。[Add] をクリックします。リソースグループ名を入力します。

Home > Resource groups >

## Create a resource group

Basics Tags Review + create

**Resource group** - A container that holds related resources for an Azure solution. The resource group can include all the resources for the solution, or only those resources that you want to manage as a group. You decide how you want to allocate resources to resource groups based on what makes the most sense for your organization. [Learn more](#)

### Project details

Subscription \*

Resource group \*

recourse-group-name

### Resource details

Region \*

(US) East US

## 仮想ネットワークおよびセキュリティグループ

インターネットの到達可能性を必要とするサブネットには、ネクストホップがインターネットとして設定されたルートテーブルが必要です。パブリックおよびプライベートサブネットワークの例を参照してください。パブリックIPを使用するPANでは、オフラインとオンラインの両方のフィードの更新が機能しますが、プライベートIPを使用するPANではオフラインフィードの更新に依存する必要があります。

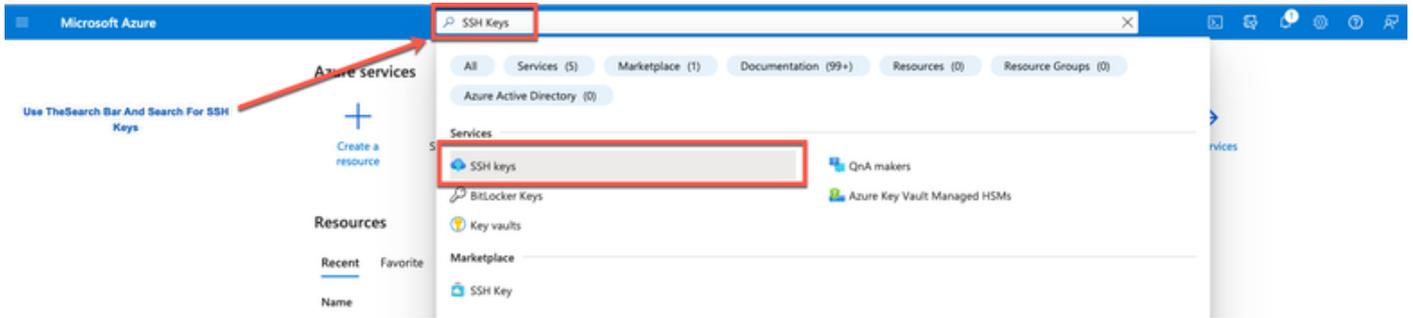
The screenshot displays the Azure portal interface for configuring a virtual network and its associated route tables. On the left, the 'Create virtual network' page is visible, showing the 'IP address space' field set to '10.0.0.0/16'. Below this, a table lists subnets with their names, address ranges, and next-hop gateways. On the right, two route tables are shown: 'PublicRouteTable' and 'PrivateRouteTable'. The 'PublicRouteTable' routes table has a blue oval highlighting the 'DMZ-2' and 'Internet' rows. The 'PrivateRouteTable' routes table shows a similar configuration for private subnets.

Name	T <sub>1</sub> Address prefix	T <sub>2</sub> Next hop type	T <sub>3</sub> Next hop IP address
DMZ-1	10.0.0.0/16	Virtual network gateway	-
DMZ-2	192.168.159.0/24	Virtual network gateway	-
Internet	0.0.0.0/0	Internet	-
Local	10.0.0.0/16	Virtual network	-

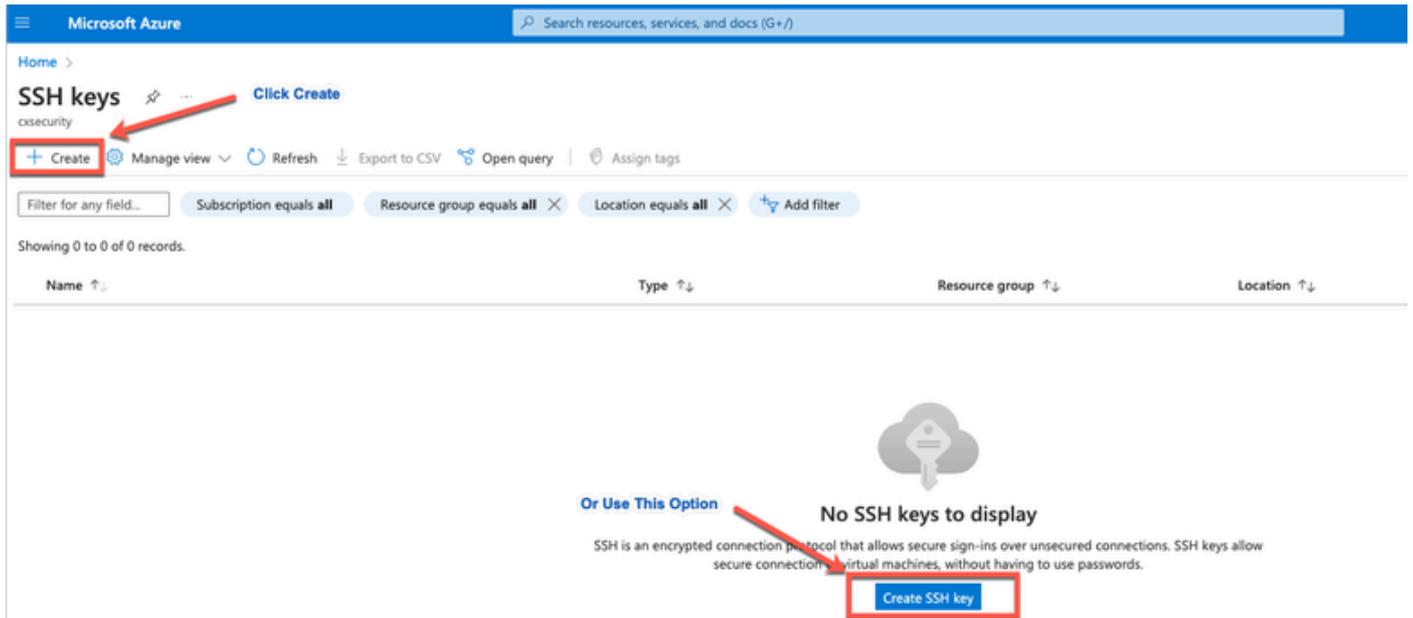
Name	T <sub>1</sub> Address prefix	T <sub>2</sub> Next hop type	T <sub>3</sub> Next hop IP address
DMZ-1	10.10.0.0/16	Virtual network gateway	-
DMZ-2	192.168.159.0/24	Virtual network gateway	-
Local	10.0.0.0/16	Virtual network	-

## SSHキーペアの作成

a. Azure Web Portalホームページの検索バーを使用して、SSHキーを検索します。



b.次のウィンドウでCreateをクリックします。



c.次のウィンドウで、リソースグループとキー名を選択します。次に、Review + Createをクリックします。

## Create an SSH key ...

Basics Tags Review + create

Creating an SSH key resource allows you to manage and use public keys stored in Azure with Linux virtual machines. [Learn more](#)

### Project details

Select the subscription to manage deployed resources and costs. Use resource groups like folders to organize and manage all your resources.

Subscription \*

Resource group \*

Select Resource group you created from D Drop Down List

### Instance details

Region \*

Key pair name \*

SSH public key source

Create Key Pair Name

Click Review + Create

Review + create

< Previous Next: Tags >

d.次にCreateをクリックして、Private Keyをダウンロードします。

## Create an SSH key ...

Validation passed

Basics Tags Review + create

### Basics

Subscription  
Resource group  
Region  
Key pair name

**Generate new key pair**

**i** An SSH key pair contains both a public key and a private key. **Azure doesn't store the private key.** After the SSH key resource is created, you won't be able to download the private key again. [Learn more](#)

Download private key and create resource

Return to create an SSH key resource

Click Create

Create

< Previous Next > Download a template for automation

## Cisco ISEでサポートされるAzure VMサイズ

Azure VM Sizes	vCPU	RAM (in GB)
Standard_D4s_v4 (This instance supports the Cisco ISE evaluation use case. 100 concurrent active endpoints are supported.)	4	16
Standard_D8s_v4	8	32
Standard_F16s_v2	16	32
Standard_F32s_v2	32	64
Standard_D16s_v4	16	64
Standard_D32s_v4	32	128
Standard_D64s_v4	64	256

- Fsv2シリーズAzure VMサイズはコンピューティングに最適化されており、膨大なコンピューティングを必要とするタスクやアプリケーションのPSNとして使用するのに最適です。
- Dsv4シリーズは、PANまたはMnTノード、あるいはその両方での使用に最適な、データ処理タスクとデータベース操作を対象とした汎用のAzure VMサイズです。

汎用インスタンスをPSNとして使用する場合、パフォーマンスの値は、コンピューティング最適化インスタンスのPSNとしてのパフォーマンスよりも低くなります。Standard\_D8s\_v4 VMサイズは、追加の小さいPSNとしてのみ使用する必要があります。



注：既存のAzure Cloudイメージを複製してCisco ISEインスタンスを作成しないでください。これを実行すると、作成されたISEマシンでランダムかつ予期しない誤動作が発生する可能性があります。

---

## Microsoft AzureクラウドサービスにおけるCisco ISEの制限

- [Azure仮想マシンを使用してCisco ISE](#)を作成する場合、デフォルトで、Microsoft AzureはDHCPサーバを介してプライベートIPアドレスをVMに割り当てます。Microsoft Azure上にCisco ISEの導入を作成する前に、Microsoft Azureによって割り当てられたIPアドレスを使用して正引きDNSエントリと逆引きDNSエントリを更新する必要があります。

または、Cisco ISEをインストールした後、Microsoft Azureでネットワークインターフェイスオブジェクトを更新して、静的IPアドレスをVMに割り当てます。

1. VMを停止します。
2. VMのPrivate IP address settings領域にあるAssignment領域で、Staticをクリックしま

す。

3. VMを再起動します。

4. Cisco ISEシリアルコンソールで、IPアドレスをGi0として割り当てます。

5. Cisco ISEアプリケーションサーバを再起動します。

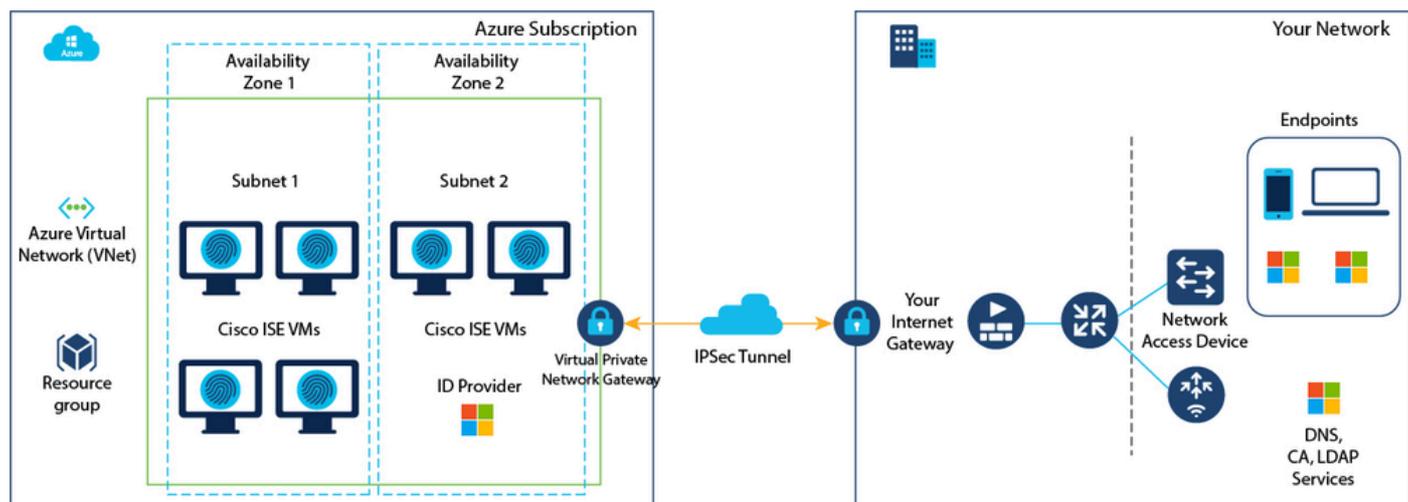
- デュアルNICは、ギガビットイーサネット0とギガビットイーサネット1の2つのNICだけでサポートされます。Cisco ISEインスタンスでセカンダリNICを設定するには、まずAzureでネットワークインターフェイスオブジェクトを作成し、Cisco ISEインスタンスの電源をオフにしてから、このネットワークインターフェイスオブジェクトをCisco ISEに接続する必要があります。AzureにCisco ISEをインストールして起動したら、Cisco ISE CLIを使用して、ネットワークインターフェイスオブジェクトのIPアドレスを手動でセカンダリNICとして設定します。
- Cisco ISEアップグレードワークフローは、Microsoft Azure上のCisco ISEでは使用できません。新規インストールのみがサポートされます。ただし、設定データのバックアップと復元は実行できます。
- パブリッククラウドはレイヤ3機能のみをサポートします。Microsoft Azure上のCisco ISEノードは、レイヤ2機能に依存するCisco ISE機能をサポートしていません。たとえば、Cisco ISE CLIを使用したDHCP SPANプロファイラプロローブおよびCDPプロトコル機能の操作は、現在サポートされていない機能です。
- 設定データの復元およびバックアップ機能を実行する場合、バックアップオペレーションが完了した後、CLIを使用してCisco ISEを再起動します。次に、Cisco ISE GUIから復元操作を開始します。
- パスワードベースの認証を使用したCisco ISE CLIへのSSHアクセスは、Azureではサポートされていません。Cisco ISE CLIには、キーペアを介してのみアクセスできます。このキーペアは安全に保存する必要があります。秘密キー(PEM)ファイルを使用していて、そのファイルが失われると、Cisco ISE CLIにアクセスできなくなります。Cisco ISE CLIにアクセスするためにパスワードベースの認証方式を使用する統合 ( Cisco DNA Centerリリース 2.1.2以前など ) はサポートされていません。
- AzureでのCisco ISE IOSの展開では通常、Dynamic Multipoint Virtual Private Networks(DMVPN)やソフトウェア定義型ワイドエリアネットワーク(SD-WAN)などのVPNソリューションを活用します。これらのソリューションでは、IPSecトンネルのオーバーヘッドによってMTUとフラグメンテーションの問題が発生する可能性があります。このようなシナリオでは、Cisco ISE IOSは完全なRADIUSパケットを受信せず、認証の失敗が失敗エラーログをトリガーせずに発生します。

考えられる回避策として、Azureのソリューションを調べるためにMicrosoftのテクニカルサポートに問い合わせることが考えられます。このソリューションでは、順序が正しくないフラグメントがドロップされずに宛先に渡される可能性があります。

- CLI管理者ユーザは「iseadmin」である必要があります。

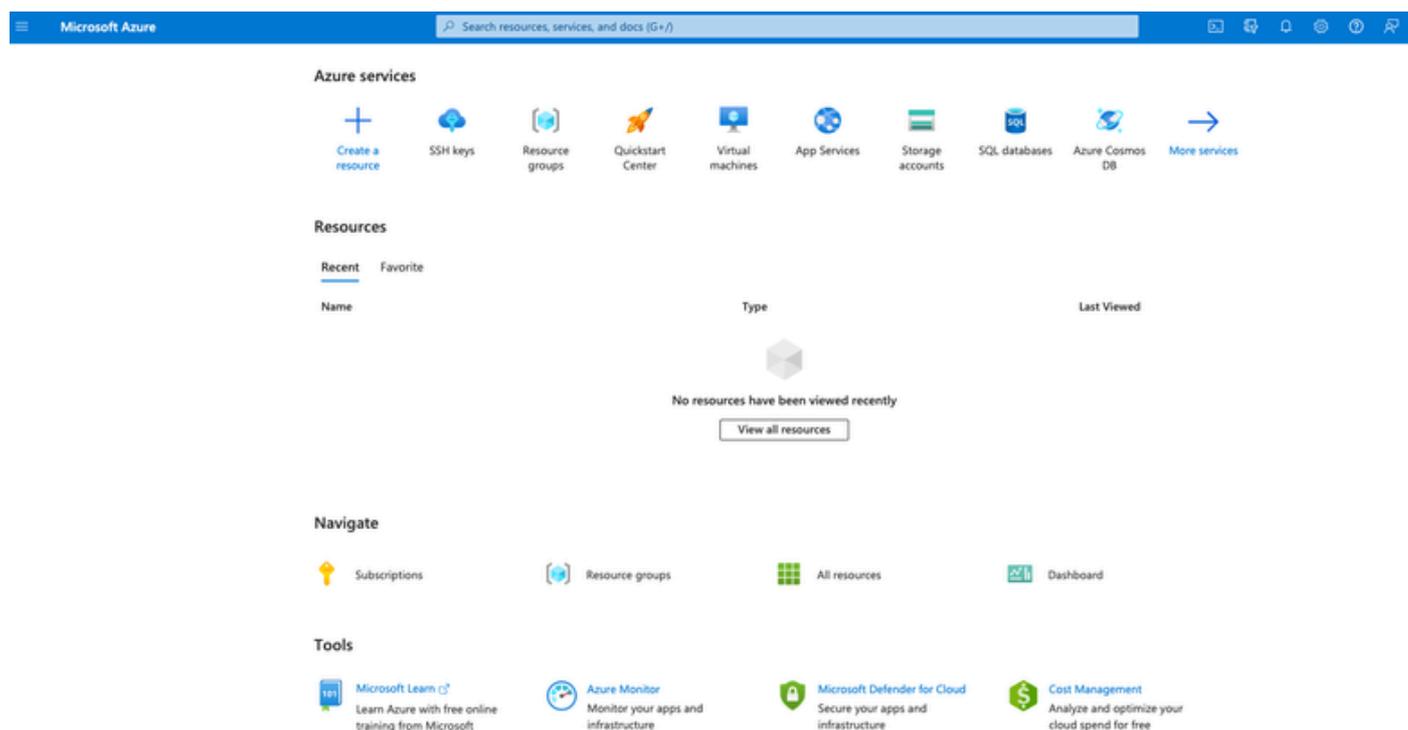
## 設定

## Azureクラウドに接続されたISEの導入例

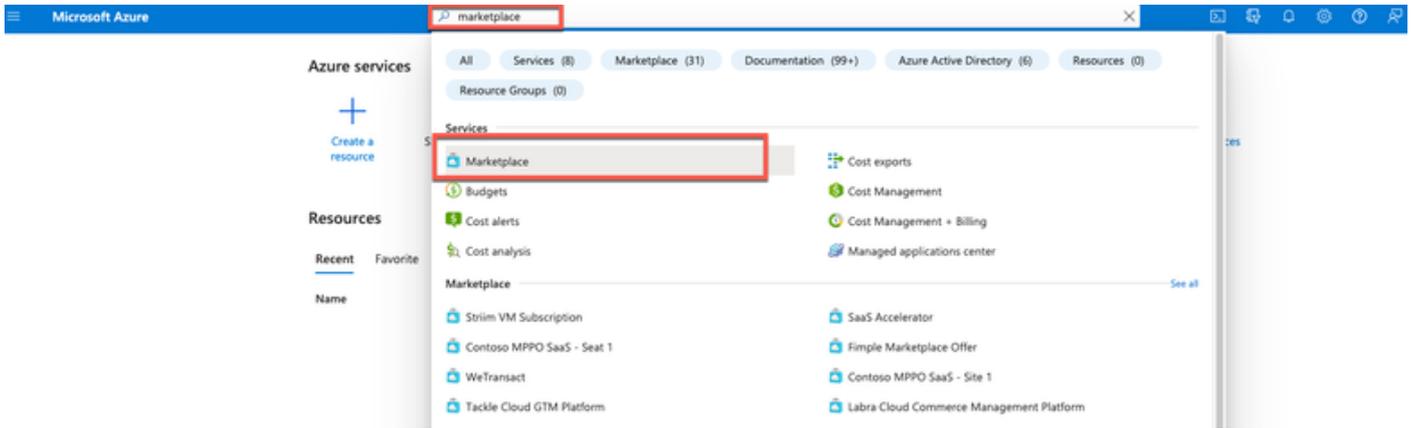


## コンフィギュレーション

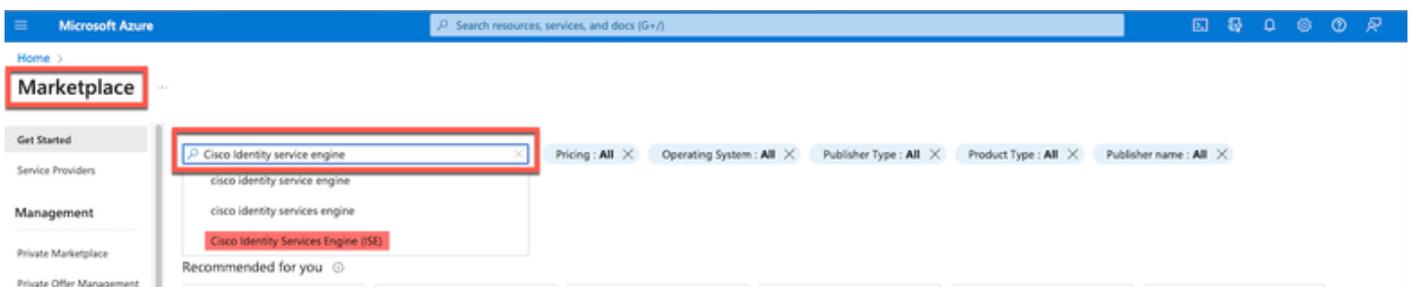
- ステップ 1 : [Azureポータル](#)に移動し、Microsoft Azureアカウントにログインします。



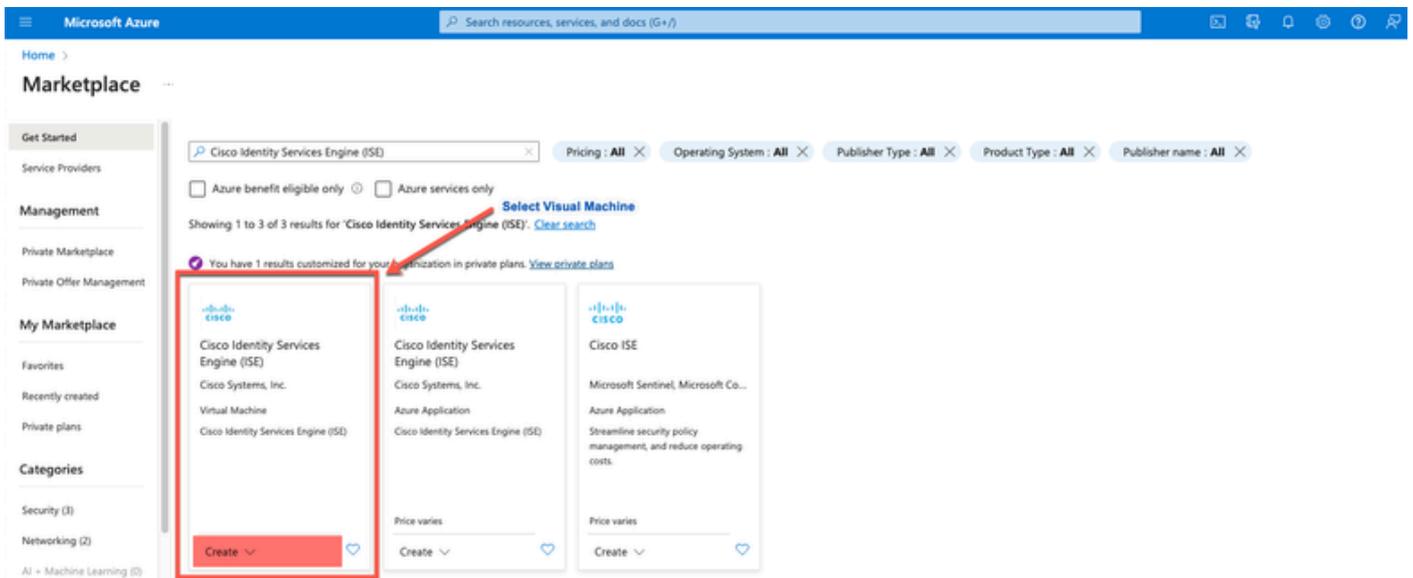
- ステップ 2 : ウィンドウの上部にある検索フィールドを使用して、Marketplaceを検索します。



- ステップ 3 : Marketplaceの検索フィールドを使用して、Cisco Identity Services Engine(ISE)を検索します。



- ステップ 4 : Virtual Machineをクリックします。



- ステップ 5 : 表示された新しいウィンドウで、Createをクリックします。

Microsoft Azure

Search resources, services, and docs (G+)

Home > Marketplace >

## Cisco Identity Services Engine (ISE)

Cisco Systems, Inc.

Cisco Identity Services Engine (ISE) [Add to Favorites](#)

Cisco Systems, Inc. | Virtual Machine

Plan

Cisco Identity Services Engine (ISE) B... **Create** Start with a pre-set configuration

Want to deploy programmatically? [Get started](#)

[Overview](#) [Plans + Pricing](#) [Usage Information + Support](#) [Ratings + Reviews](#)

• 手順 6 : Basics タブでは、次の操作を行います。

- a. 「プロジェクトの詳細」領域で、「購読」および「リソースグループ」ドロップダウンリストから必要な値を選択します
- b. インスタンス詳細領域で、仮想マシン名フィールドに値を入力します。
- c. Image ドロップダウンリストから、Cisco ISE イメージを選択します。
- d. Size ドロップダウンリストから、Cisco ISE のインストールに使用するインスタンスサイズを選択します。Azure Cloud という表に記載されているように、Cisco ISE でサポートされるインスタンスを選択します。

Cisco ISE でサポートされているインスタンスについては、「[Azure Cloud 上の Cisco ISE](#)」セクションを参照してください。

- e. Administrator account > Authentication type 領域で、SSH Public Key オプションボタンをクリックします。
- f. Username フィールドに iseadmin と入力します。
- g. SSH public key source ドロップダウンリストから、Use existing key stored in Azure を選択します。
- h. Stored keys ドロップダウンリストから、このタスクの前提条件として作成したキーペアを選択します。
- j. Inbound port rules 領域で、Allow selected ports オプションボタンをクリックします。
- k. Licensing 領域で、Licensing type ドロップダウンリストから、Other を選択します。

[Home](#) > [Virtual machines](#) >

# Create a virtual machine

[Basics](#) [Disks](#) [Networking](#) [Management](#) [Monitoring](#) [Advanced](#) [Tags](#) [Review + create](#)

Create a virtual machine that runs Linux or Windows. Select an image from Azure marketplace or use your own customized image. Complete the Basics tab then Review + create to provision a virtual machine with default parameters or review each tab for full customization. [Learn more](#)

## Project details

Select the subscription to manage deployed resources and costs. Use resource groups like folders to organize and manage all your resources.

Subscription \*

[Select Your Subscription](#)

Resource group \*

[Resource Group You Created](#)[Create new](#)

## Instance details

Virtual machine name \*

ise-vm-name

Region \*

(US) East US

Availability options

Availability zone

Availability zone \*

Zones 1

You can now select multiple zones. Selecting multiple zones will create one VM per zone. [Learn more](#)

Security type

Standard

Image \*

Cisco Identity Services Engine (ISE) BYOL 3.2 - x64 Gen1

[See all images](#) | [Configure VM generation](#)

VM architecture

 Arm64 x64

Arm64 is not supported with the selected image.

[Click Here To Select ISE Image](#)

Run with Azure Spot discount

Size \*

Standard\_D32s\_v4 - 32 vcpus, 128 GiB memory (\$863.59/month)

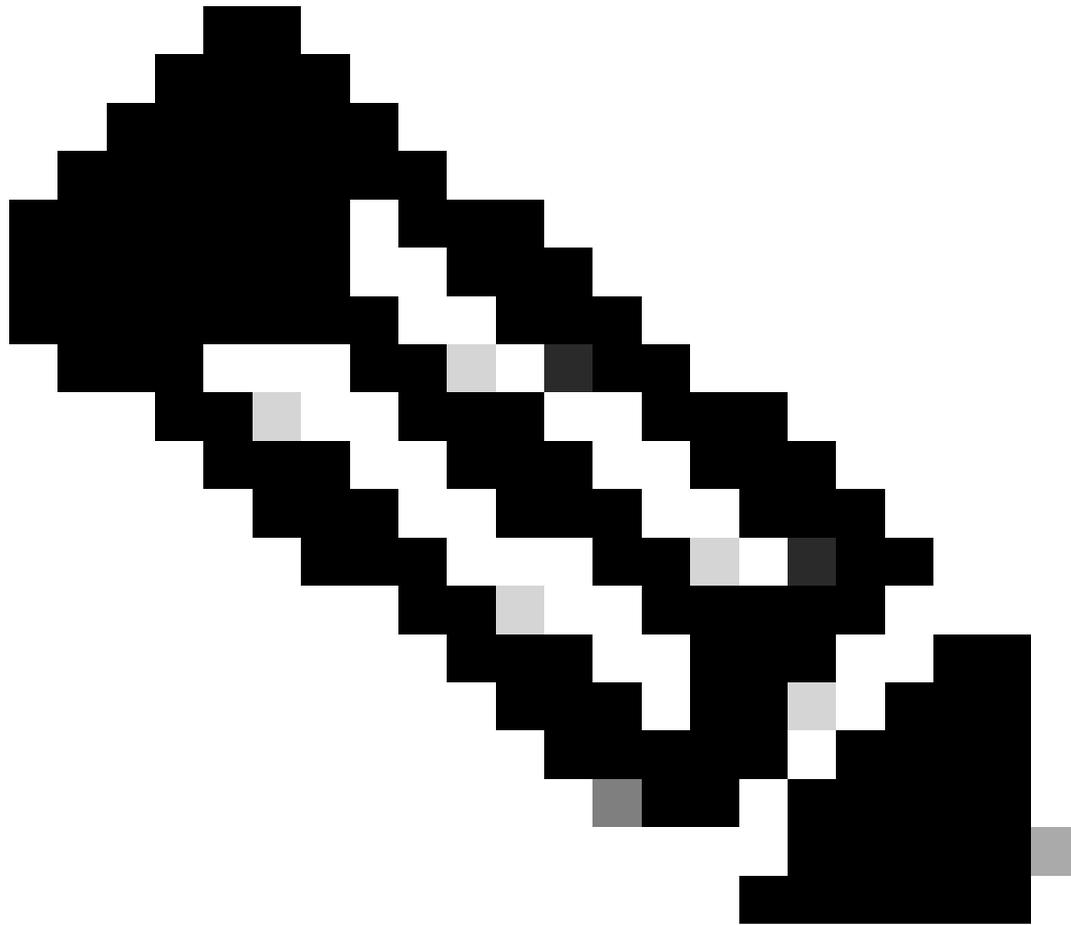
[See all sizes](#)

## Administrator account

Authentication type

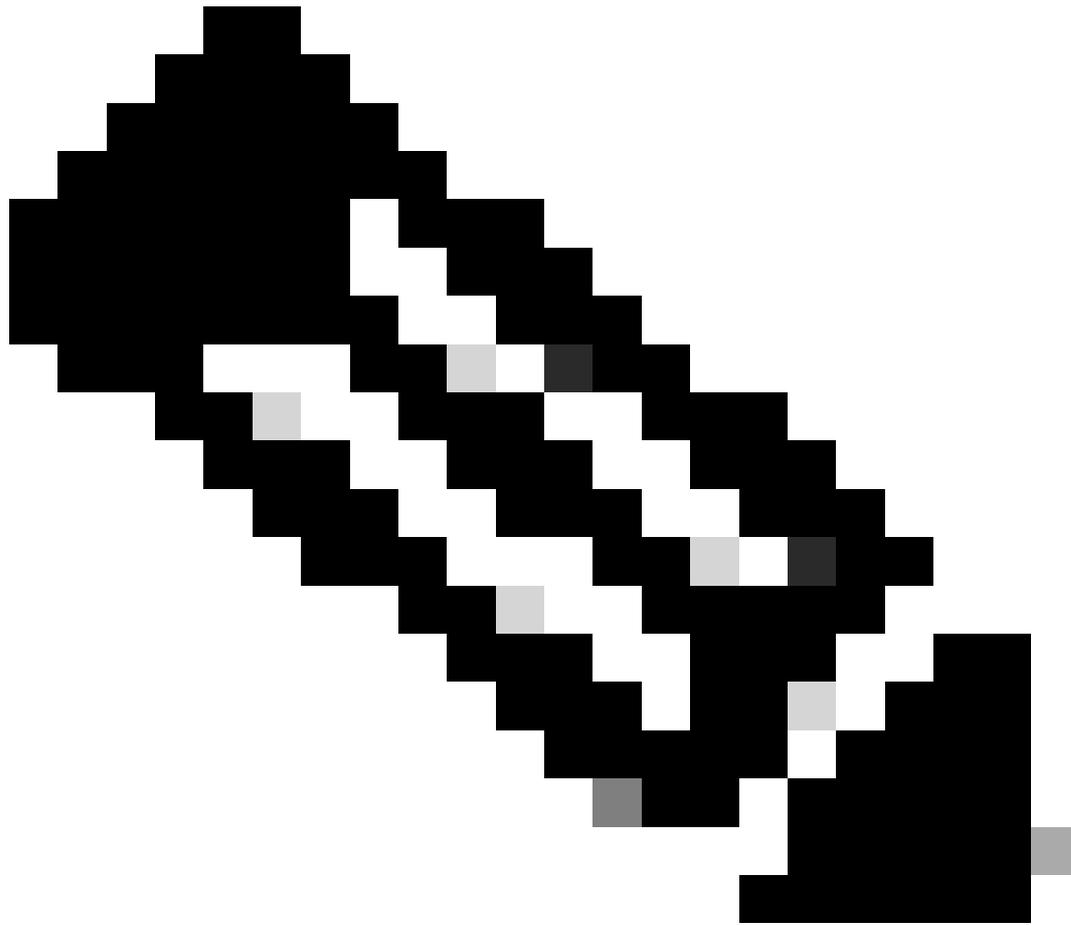
 SSH public key Password[Click Here To Select ISE Template](#)

Azure now automatically generates an SSH key pair for you and allows you to



注: [Disk Type] ( ディスクタイプ ) には、ドロップダウンリストから選択できるオプションが他にもあります。ニーズに合った製品を選択できます。プレミアムSSDは、実稼働およびパフォーマンスに影響を受けやすいワークロードに推奨されるタイプです。

- 
- ステップ 9 : Network Interface領域で、Virtual network、Subnet、およびConfigure network security groupドロップダウンリストから、作成した仮想ネットワークとサブネットを選択します。



注：パブリックIPアドレスを持つサブネットは、オンラインおよびオフラインのポスチャフィード更新を受信するのに対し、プライベートIPアドレスを持つサブネットは、オフラインのポスチャフィード更新のみを受信します。

---

# Create a virtual machine ...

Basics Disks **Networking** Management Monitoring Advanced Tags Review + create

Define network connectivity for your virtual machine by configuring network interface card (NIC) settings. You can control ports, inbound and outbound connectivity with security group rules, or place behind an existing load balancing solution. [Virtual Network You created Or Click Create New](#)  
[Learn more](#)

## Network interface

When creating a virtual machine, a network interface will be created for you.

Virtual network \*  [Create new](#)

Subnet \*

Public IP  [Create new](#)

NIC network security group  None  
 Basic  
 Advanced [Select Security Group You Created Or Click Create New](#)

Configure network security group \*  [Create new](#)

Delete public IP and NIC when VM is deleted

Enable accelerated networking  The selected image does not support accelerated networking.

## Load balancing

You can place this virtual machine in the backend pool of an existing Azure load balancing solution. [Learn more](#)

[Review + create](#) [< Previous](#) [Next : Management >](#)

- ステップ 10 : Next: Managementをクリックします。

Delete public IP and NIC when VM is deleted

Enable accelerated networking  The selected image does not support accelerated networking.

[Review + create](#) [< Previous](#) [Next : Management >](#)

- ステップ 11 Managementタブで、必須フィールドの値をデフォルトのままにして、Next: Advancedをクリックします。



Home > Virtual machines >

# Create a virtual machine ...

**“Click Next on This Page > Monitoring > Advanced”**

Basics   Disks   Networking   Management   Monitoring   Advanced   Tags   Review + create

Configure management options for your VM.

## Microsoft Defender for Cloud

Microsoft Defender for Cloud provides unified security management and advanced threat protection across hybrid cloud workloads. [Learn more](#)

Your subscription is protected by Microsoft Defender for Cloud basic plan.

## Identity

Enable system assigned managed identity

## Azure AD

Login with Azure AD

This image does not support Login with Azure AD.

## Auto-shutdown

Enable auto-shutdown

## Create a virtual machine ...

Basics   Disks   Networking   Management   **Monitoring**   Advanced   Tags   Review + create

Configure monitoring options for your VM.

**Premium SSD "Recommended Type For Production"**

**Alerts**

Enable recommended alert rules ⓘ

**Diagnostics**

Boot diagnostics ⓘ  Enable with managed storage account (recommended)

Enable with custom storage account

Disable

Enable OS guest diagnostics ⓘ

Review + create

< Previous

Next : Advanced >

- ステップ 12 User data 領域で、Enable user data チェックボックスにチェックマークを付けます。

User data フィールドに、次の情報を入力します。

hostname=<Cisco ISEのホスト名>

primarynameserver=<IPv4アドレス>

dnsdomain=<ドメイン名>

ntpserver=<NTPサーバのIPv4アドレスまたはFQDN>

timezone=<timezone>

password=<パスワード>

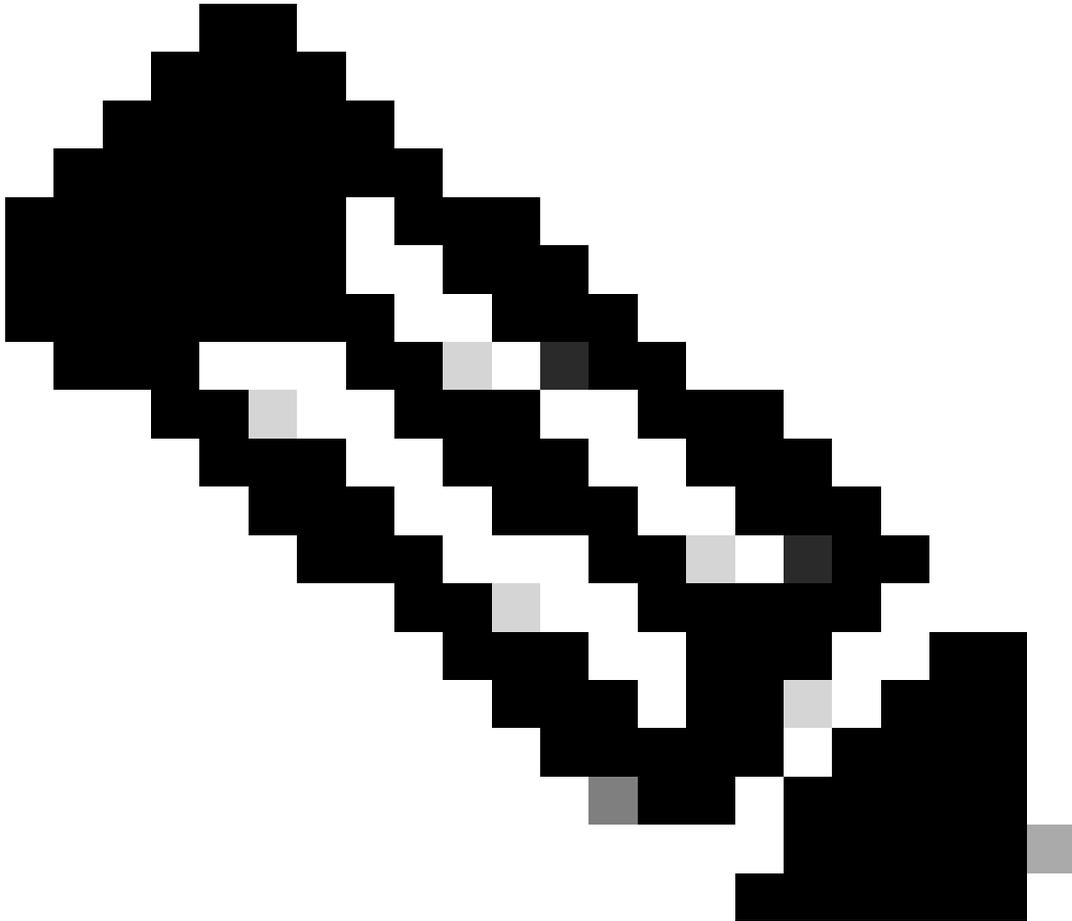
ersapi=<yes/no>

openapi=<yes/no>

pxGrid=<はい/いいえ>

pxgrid\_cloud=<yes/no>

---



注：ユーザデータ入力で設定する各フィールドには、正しい構文を使用する必要があります。[ユーザデータ]フィールドに入力した情報は、入力時に検証されません。誤った構文を使用すると、イメージの起動時にCisco ISEサービスが起動しません。

---

ユーザデータフィールドから送信する必要がある設定については、ガイドラインを参照してください。

a. ホスト名：英数字とハイフン(-)のみを含むホスト名を入力します。ホスト名の長さは19文字を超えず、アンダースコア(\_)を含めることはできません。

b. primary nameserver：プライマリネームサーバのIPアドレスを入力します。IPv4アドレスのみがサポートされます。

この手順で追加できるDNSサーバは1つだけです。インストール後にCisco ISE CLIを使用してDNSサーバを追加できます。

c. dnsdomain:DNSドメインのFQDNを入力します。エントリには、ASCII文字、数字、ハイフン(-)、およびピリオド(.)を含めることができます。

d. ntpserver : 同期に使用するNTPサーバのIPv4アドレスまたはFQDNを入力します。

この手順で追加できるNTPサーバは1つだけです。インストール後にCisco ISE CLIを使用してNTPサーバを追加できます。有効で到達可能なNTPサーバを使用します。これは、ISEの動作に必要です。

e.タイムゾーン : タイムゾーンを入力します ( 例 : Etc/UTC )。すべてのCisco ISEノードを協定世界時(UTC)タイムゾーンに設定することをお勧めします ( 特に、Cisco ISEノードが分散導入にインストールされている場合 )。この手順により、展開内のさまざまなノードからのレポートとログのタイムスタンプが常に同期されます。

f. password: Cisco ISEへのGUIベースのログイン用パスワードを設定します。入力するパスワードは、Cisco ISEパスワードポリシーに準拠している必要があります。パスワードは6 ~ 25文字で、1文字以上の数字、1文字以上の大文字、1文字以上の小文字を含む必要があります。ユーザ名またはその逆 ( iseadminまたはnimdaesi )、cisco、ocsicと同じパスワードは使用できません。使用できる特殊文字は@~\*!,+=\_-です。使用しているリリースの『[Cisco ISE管理者ガイド](#)』の「基本設定」の章にある「ユーザパスワードポリシー」セクションを参照してください。

g. ersapi:ERSを有効にするにはyesを、ERSを無効にするにはnoを入力します。

h. openapi:OpenAPIを有効にするにはyesを入力し、OpenAPIを無効にするにはnoを入力します。

i. pxGrid:pxGridを有効にする場合はyes、pxGridを無効にする場合はnoを入力します。

j. pxgrid\_cloud:pxGrid Cloudを有効にする場合はyes、許可しない場合はnoを入力します。pxGrid Cloudを有効にするには、pxGridを有効にする必要があります。pxGridを許可せずにpxGridクラウドを有効にした場合、pxGridクラウドサービスは起動時に有効になりません。

## Create a virtual machine

Select This

Enable user data

User data \*

```
hostname=isehostname  
primarynameserver=primary sever ip address  
dnsdomain=domain fqdn  
ntpserver=ntp server ip address  
timezone=America/Chicago  
username= iseadmin  
password=passworded  
ersapi=yes  
openapi=yes  
pxGrid=no  
pxgrid_cloud=no
```

### Performance (NVMe)

Enable capabilities to enhance the performance of your resources.

Higher remote disk storage performance with NVMe

**i** The selected image and size are not supported for NVMe.  
[See supported VM images and sizes](#)

### Host

Azure Dedicated Hosts allow you to provision and manage a physical server within our data centers that are dedicated to your Azure subscription. A dedicated host gives you assurance that only VMs from your subscription are on the host, flexibility to choose VMs from your subscription that will be provisioned on the host, and the control of platform maintenance at the level of the host. [Learn more](#)

Host group

No host groups found

### Capacity reservations

Capacity reservations allow you to reserve capacity for your virtual machine needs. You get the same SLA as normal virtual machines with the security of reserving the capacity ahead of time. [Learn more](#)

Review + create

< Previous

Next : Tags >

User Dataセクション

- ステップ 13Next: Tagsをクリックします。

## Performance (NVMe)

Enable capabilities to enhance the performance of your resources.

Higher remote disk storage performance with NVMe  ⓘ

**i** The selected image and size are not supported for NVMe. [See supported VM images and sizes](#)

Review + create

< Previous

Next : Tags >

- ステップ 14 : リソースを分類し、複数のリソースとリソースグループを統合できる名前と値のペアを作成するには、NameフィールドとValueフィールドに値を入力します。

[Home](#) > [Virtual machines](#) >

## Create a virtual machine ...

Basics Disks Networking Management Monitoring Advanced Tags Review + create

Tags are name/value pairs that enable you to categorize resources and view consolidated billing by applying the same tag to multiple resources and resource groups. [Learn more about tags](#)

Note that if you create tags and then change resource settings on other tabs, your tags will be automatically updated.

Name ⓘ

Value ⓘ

Resource

Tag Name

: Value Name

13 selected

- ステップ 15 : Next: Review + Createをクリックします。

Review + create

< Previous

Next : Review + create >

- ステップ 16 : これまでに入力した情報を確認し、Createをクリックします。

Deployment is in progressウィンドウが表示されます。Cisco ISEインスタンスが作成され、使用可能になるまで約30分かかります。Cisco ISE VMインスタンスがバーチャル Machinesウィンドウ(ウィンドウを検索するにはメイン検索フィールドを使用します)。

## Create a virtual machine

Validation passed

Preferred e-mail address

Preferred phone number

### Basics

Subscription   
Resource group   
Virtual machine name   
Region   
Availability options Availability zone  
Availability zone 1  
Security type Standard  
Image Cisco Identity Services Engine (ISE) BYOL 3.2 - Gen1  
VM architecture x64  
Size Standard D16s v4 (16 vcpus, 64 GiB memory)  
Authentication type SSH public key  
Username iseuser  
Key pair name   
Azure Spot No

### Disks

[Download a template for automation](#)

## CreateVm-cisco.cisco-ise-virtual-cisco-ise\_3\_2-20230926145056 | Overview

Search  Delete Cancel Redeploy Download Refresh

- Overview
- Inputs
- Outputs
- Template

Deployment is in progress

Deployment name: CreateVm-cisco.cisco-ise-virtual-cisco-ise\_3\_2-2... Start time: 9/26/2023, 4:06:05 PM  
Subscription:  Correlation ID:

### Deployment details

Resource	Type	Status	Operation details
	Microsoft.Compute/virtualMachines	Created	<a href="#">Operation details</a>
	Microsoft.Network/networkInterfaces	Created	<a href="#">Operation details</a>
	Microsoft.Network/virtualNetworks	OK	<a href="#">Operation details</a>
	Microsoft.Network/publicIpAddresses	OK	<a href="#">Operation details</a>
	Microsoft.Network/networkSecurityGroups	OK	<a href="#">Operation details</a>

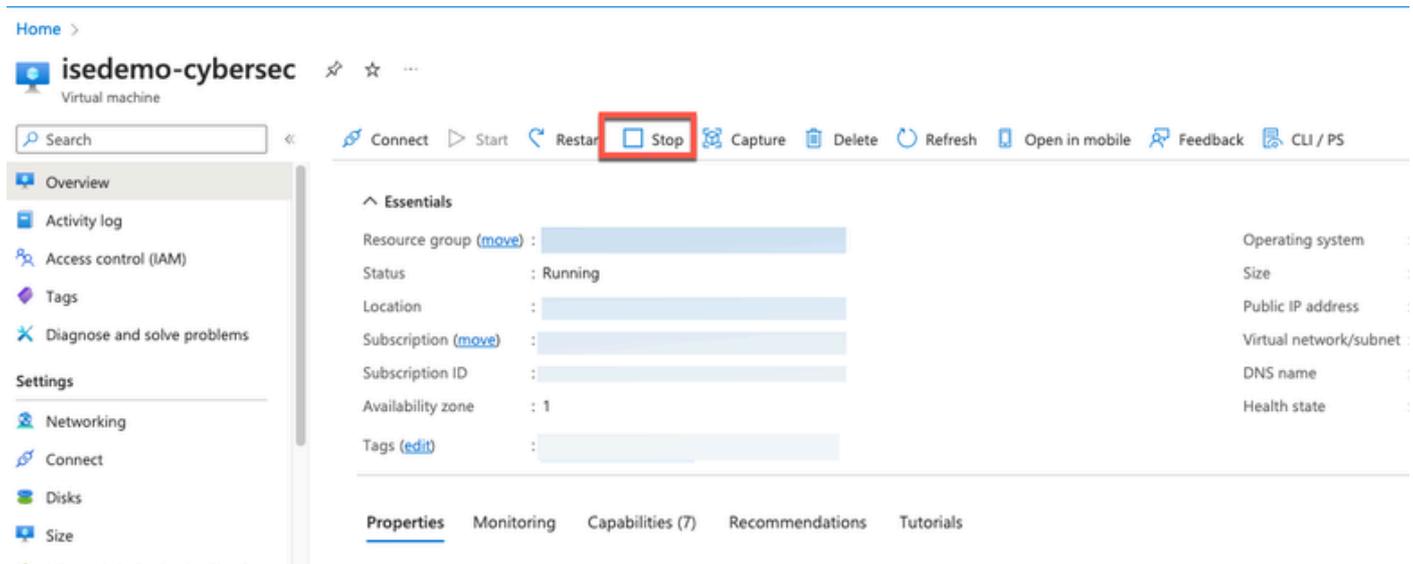
Give feedback  
[Tell us about your experience with deployment](#)

## 次の作業

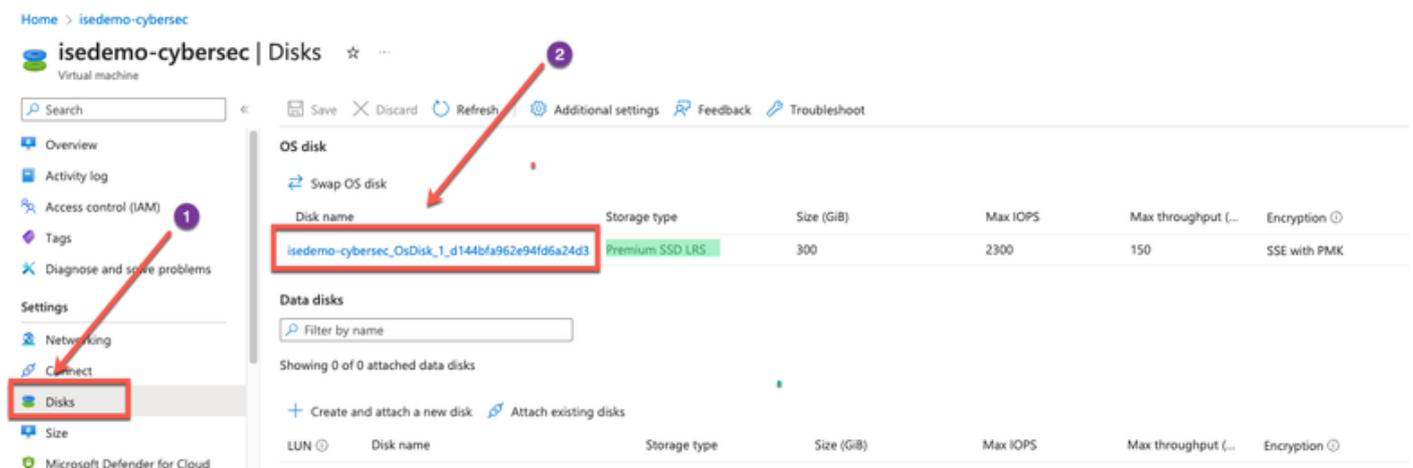
Microsoft Azureのデフォルト設定により、作成したCisco ISE VMは300 GBのディスクサイズでのみ構成されています。Cisco ISEノードには通常、300 GBを超えるディスクサイズが必要です。Microsoft AzureからCisco ISEを初めて起動すると、Insufficient Virtual Memoryアラームが表示されます。

Cisco ISE VMの作成が完了したら、Cisco ISE管理ポータルにログインして、Cisco ISEが設定されていることを確認します。次にMicrosoft Azureポータルで、仮想マシンウィンドウの手順を実行し、ディスクサイズを編集します。

### 1. Cisco ISEインスタンスを停止します。



### 2. 左側のペインでDiskをクリックし、Cisco ISEで使用しているディスクをクリックします。



### 3. 左側のペインでSize + performanceをクリックします。

Home > Disks > OsDisk\_1\_d144bfa962e94fd6a24d3a28472c55fb

Search

Overview

- Activity log
- Access control (IAM)
- Tags
- Diagnose and solve problems

Settings

- Configuration
- Size + performance**
- Encryption
- Networking
- Disk Export
- Properties
- Locks

Essentials

Resource group (move) : [Redacted]

Disk state : Reserved

Location : [Redacted]

Subscription (move) : [Redacted]

Subscription ID : [Redacted]

Time created : 9/26/2023, 4:06:17 PM

Tags (edit) : [Redacted]

Disk size : 300 GiB

Storage type : Premium SSD LRS

Managed by : isedemo-cybersec

Operating system : Linux

Completion percent : 100

Max shares : 0

Availability zone : 1

Performance tier : P20 - 2300 IOPS, 150 MB/s

Security type : Standard

Show data for last: 1 hour 6 hours 12 hours 1 day 7 days

4. [カスタムディスクサイズ]フィールドに、必要なディスクサイズをGiB単位で入力します。

Home > OsDisk\_1\_d144bfa962e94fd6a24d3a28472c55fb

OsDisk\_1\_d144bfa962e94fd6a24d3a28472c55fb | Size + performance

Search

Overview

- Activity log
- Access control (IAM)
- Tags
- Diagnose and solve problems

Settings

- Configuration
- Size + performance**
- Encryption
- Networking
- Disk Export
- Properties
- Locks

Monitoring

- Metrics

Automation

- Tasks (preview)
- Export template

Help

Storage type: Premium SSD (locally-redundant storage)

Size	Disk tier	Provisioned IOPS	Provisioned throughput	Max Shares
4 GiB	P1	120	25	3
8 GiB	P2	120	25	3
16 GiB	P3	120	25	3
32 GiB	P4	120	25	3
64 GiB	P6	240	50	3
128 GiB	P10	500	100	3
256 GiB	P15	1100	125	3
<b>512 GiB</b>	<b>P20</b>	<b>2300</b>	<b>150</b>	<b>3</b>
1024 GiB	P30	5000	200	5
2048 GiB	P40	7500	250	5
4096 GiB	P50	7500	250	5
8192 GiB	P60	16000	500	10
16384 GiB	P70	18000	750	10
32767 GiB	P80	20000	900	10

Custom disk size (GiB) \* 300

Save Discard

## ポストインストールタスク

Cisco ISEインスタンスを正常に作成した後に実行する必要があるインストール後のタスクの詳細については、ご使用のCisco ISEリリースの『[Cisco ISE Installation Guide](#)』の「Installation Verification and Post Installation Tasks」の章を参照してください。

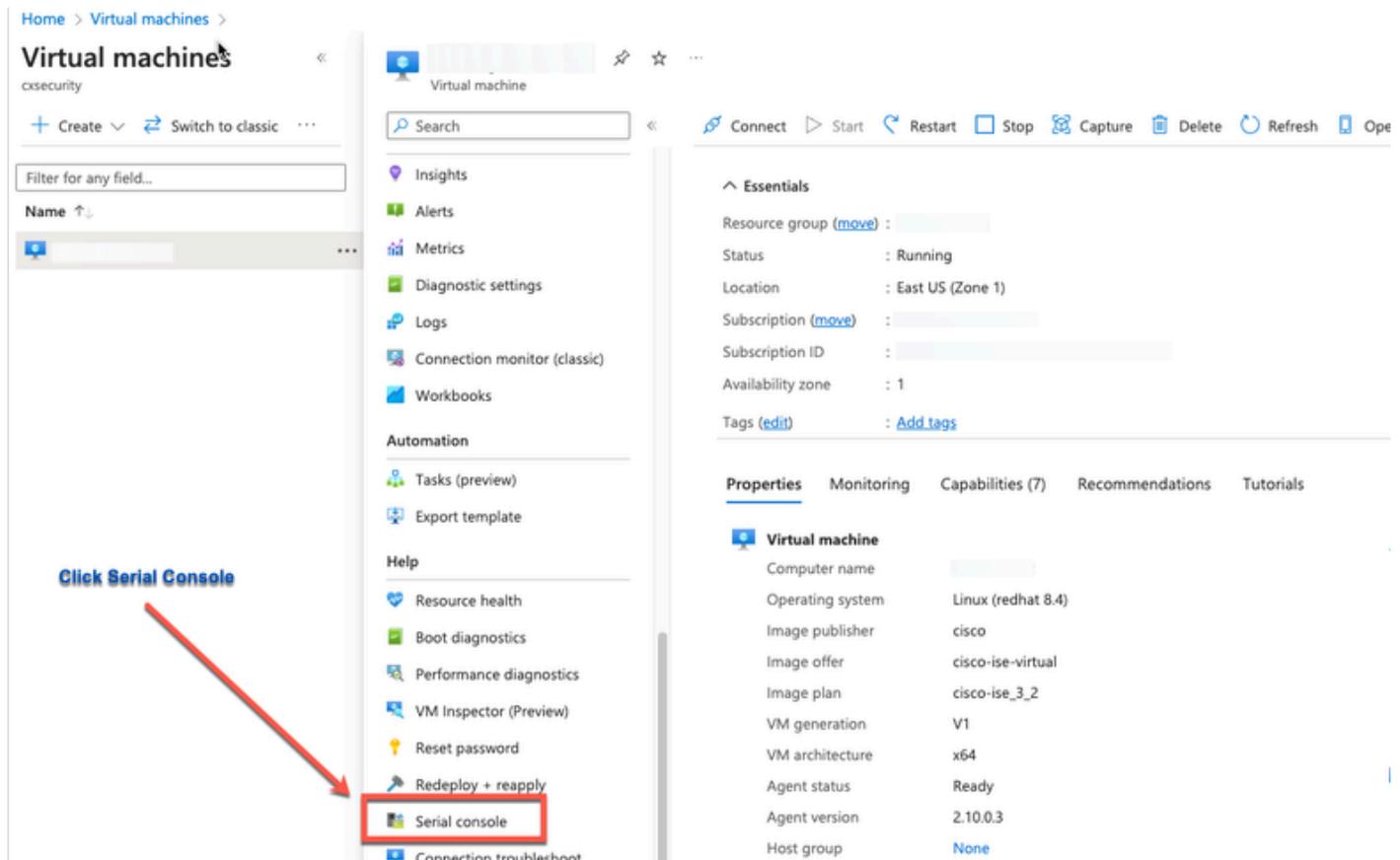
## Azureクラウドでのパスワードの回復とリセット

Cisco ISE仮想マシンのパスワードのリセットまたは回復に役立つタスクを実行します。必要なタ

スクを選択し、詳細な手順を実行します。

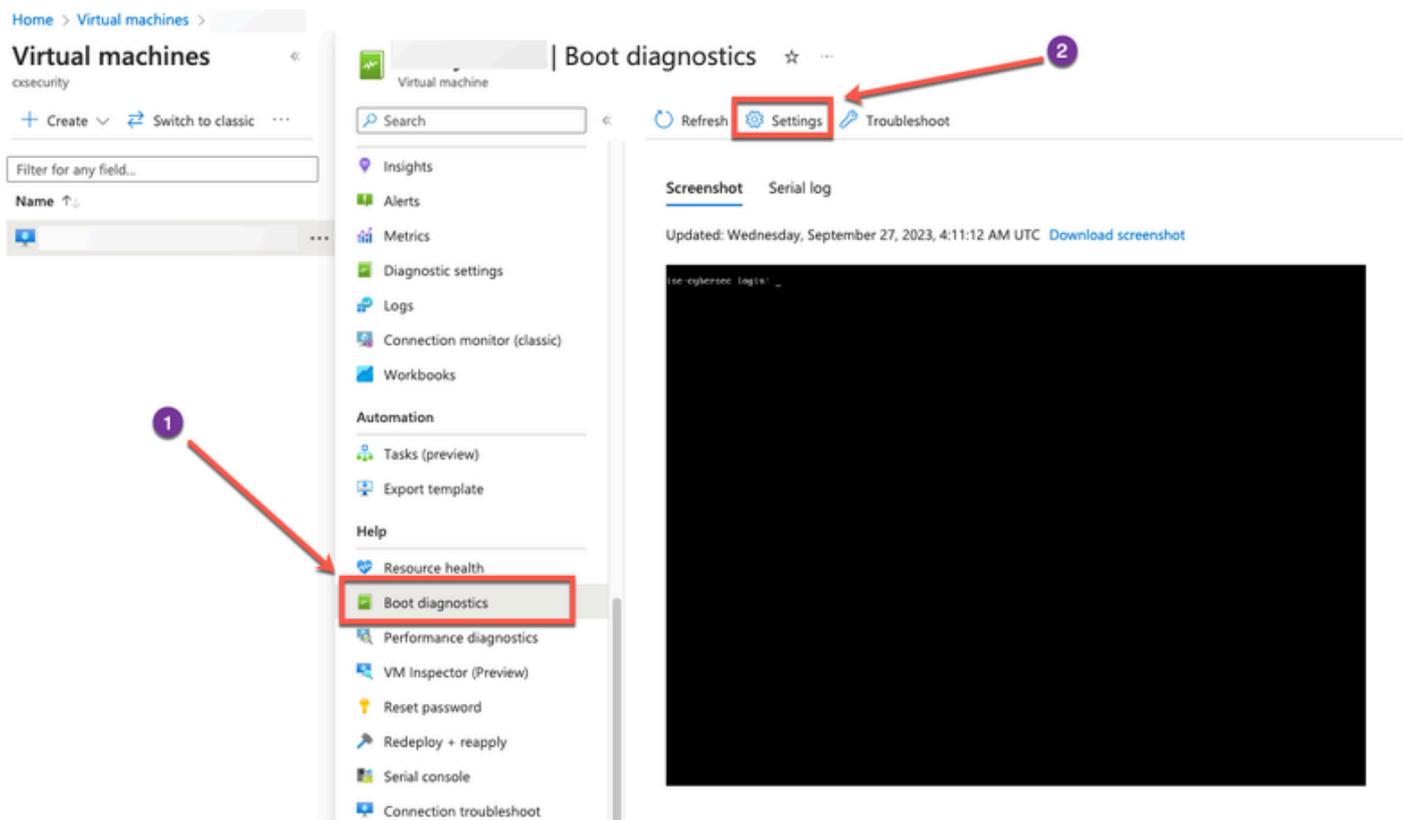
## 1. シリアルコンソールによるCisco ISE GUIパスワードのリセット

- ステップ 1 : Azure Cloudにログインし、Cisco ISE仮想マシンを含むリソースグループを選択します。
- ステップ 2 : リソースのリストから、パスワードをリセットするCisco ISEインスタンスをクリックします。
- ステップ 3 : 左側のメニューで、Support + TroubleshootingセクションからSerial Consoleをクリックします。

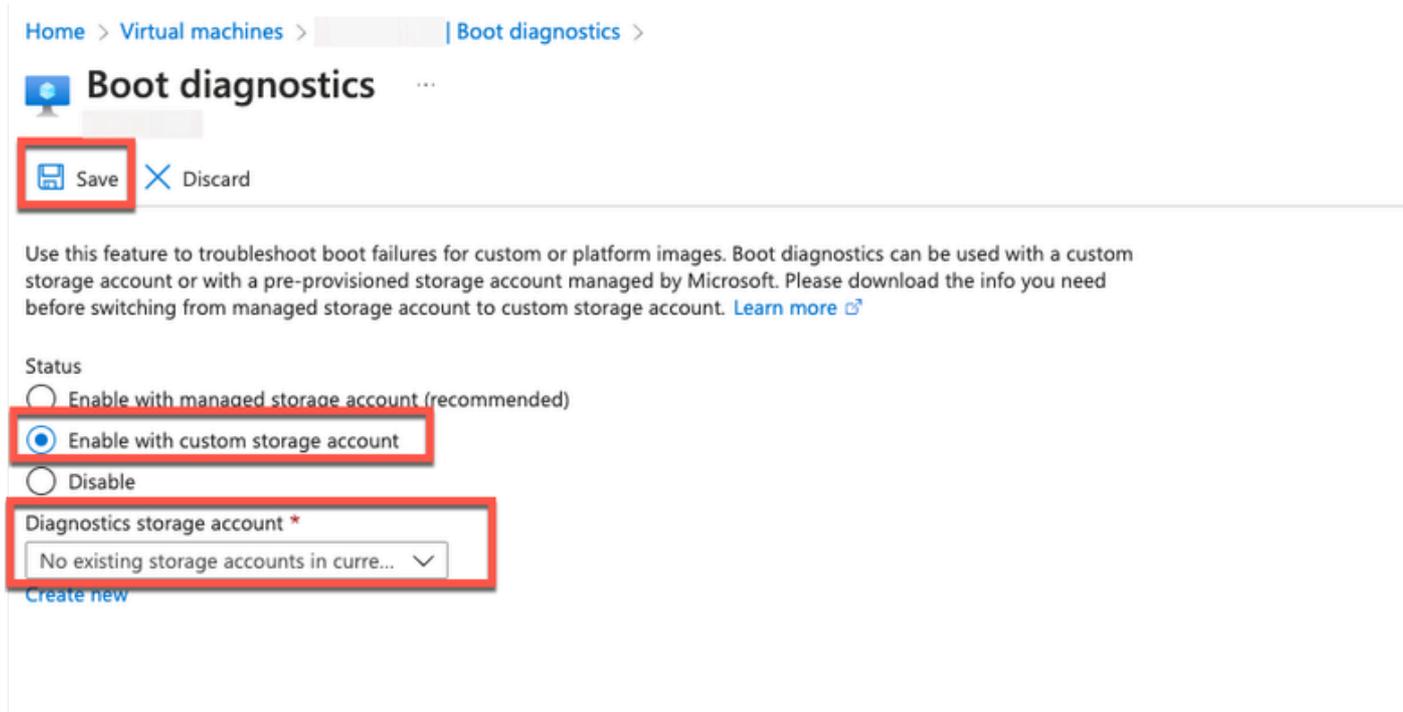


- ステップ 4 : ここでエラーメッセージが表示された場合は、完全な手順を実行してブート診断を有効にする必要があります。

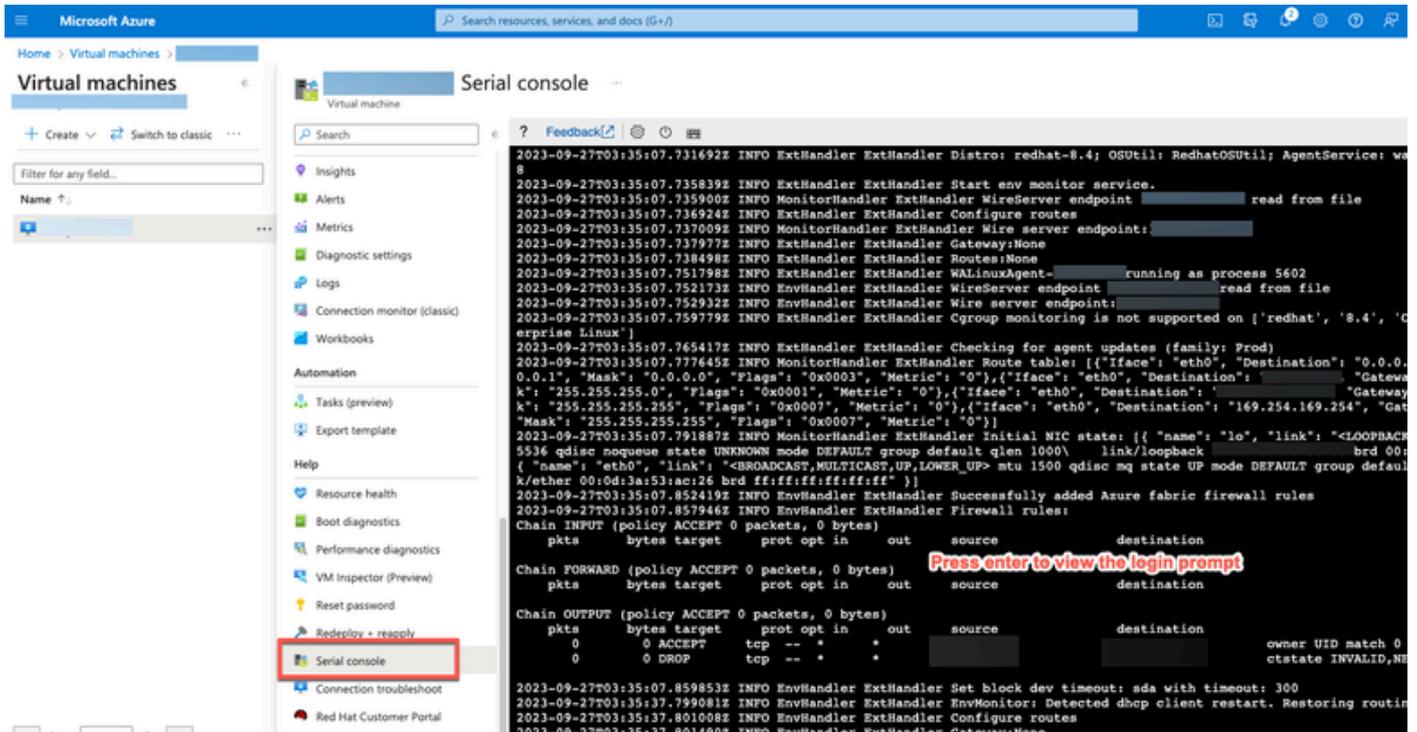
a. 左側のメニューでBoot Diagnosticsをクリックします。



b. Enable with a custom storage accountをクリックします。次に [Save] をクリックします。



- ステップ 5 : 左側のメニューで、Support + TroubleshootingセクションからSerial Consoleをクリックします。Azure Cloud Shellが新しいウィンドウに表示されます。画面が黒い場合は、Enterキーを押してログインプロンプトを表示します。



- ステップ 8 : シリアルコンソールにログインします。シリアルコンソールにログインするには、インスタンスのインストール時に設定された元のパスワードを使用する必要があります。
- ステップ 9 : application reset-passwd use iseadmin コマンドを使用して、iseadmin アカウントの新しい GUI パスワードを設定します。

## 2. SSH アクセス用の新しい公開キーペアの作成

この作業では、リポジトリにキーペアを追加します。Cisco ISE インスタンスの設定時に作成された既存のキーペアは、作成した新しい公開キーに置き換えられません。

- ステップ 1 : Azure クラウドに新しい公開キーを作成します。

## Create an SSH key ...

Basics Tags Review + create

Creating an SSH key resource allows you to manage and use public keys stored in Azure with Linux virtual machines. [Learn more](#)

### Project details

Select the subscription to manage deployed resources and costs. Use resource groups like folders to organize and manage all your resources.

Subscription \*

Resource group \*

Select Resource group you created from D Drop Down List

### Instance details

Region \*

Key pair name \*

SSH public key source

Create Key Pair Name

Click Review + Create

< Previous

Next: Tags >

ポップアップウィンドウでDownload private key and create a resourceを選択し、SSHキーを.pemファイルとしてダウンロードします。

## Generate new key pair



An SSH key pair contains both a public key and a private key. **Azure doesn't store the private key.** After the SSH key resource is created, you won't be able to download the private key again. [Learn more](#)

[Download private key and create resource](#)

[Return to create an SSH key resource](#)

- ステップ 2：公開キーを保存する新しいリポジトリを作成するには、[Azure Reposのドキュメント](#)を参照してください。CLIを使用してアクセス可能なリポジトリがすでに存在する場合は、ステップ3に進みます。
- ステップ 3：新しい公開キーをインポートするには、`crypto key import <public key filename> repository <repository name>`コマンドを使用します。
- ステップ 4：インポートが完了したら、新しい公開キーを使用してSSH経由でCisco ISEにログインできます。

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。